



たまたれ
No.57

玉垂

Tamadale

”令和のお屋根替え”
次世代へつなぐ 祈り・技・美



小國神社明神通り縁結び公式キャラクター
「こつち君」(左)「こつち姫」(右)

巻頭特集

奉祝 天皇陛下御即位

小國神社の祭祀で振り返る、「平成」から「令和」へ —新時代の幕開け—

社頭動静

奉製 特別

かのえね 庚子 小國神社 えとどれい 干支土鈴 ～生活空間にそっと寄り添う縁起物～

こうせい かい 興静会「令和」書奉納大会 受賞作品結果発表 ～書に託す“令和”への願い～

遠江国一宮

小國神社の由来

創

始は神代と伝えられ、延宝八年（一六八〇）の社記によると、人皇二十九代欽明天皇の御代十年（五五五）二月十八日に本宮山峯（本宮山）に御神霊が顕れた後、勅使が遣わされ、山麓約六キロの現在地に社殿を造営し、正一位の神階を授けられました。

それ以来、年々御神前に幣帛を捧げられ文武天皇大宝元年（七〇一）春十八日に勅使奉幣の際、特に十二段舞楽を奉奏されました。延喜七年（九〇七）延喜式内社に列せられ、中世には徳川家康をはじめとする武将など、朝野の崇敬が極めて篤く近世に至っております。

元龜三年（一五七二）の戦では、家康公は御神霊を別所に遷し、願文と三条小鍛冶宗近作の太刀を奉り戦勝を祈願した後、社殿を全て焼失しました。

天正三年（一五七五）に勝利を得た家康公は、御本殿の造営、拜殿・楼門を再建され、更に社領五九〇石の朱印を奉り、以降世々の徳川將軍家より、社殿の改造・修復料を寄進されました。

明治六年六月十三日に国幣小社に列せられ、明治十五年三月に再度の火災により御本殿以下建造物など消失しましたが、明治十九年に復興され現在に至っております。平成十七年には御鎮座一四五〇年祭が斎行され、『遠江国の一宮さま』として崇敬され広く親しまれております。

また、平成十五年九月十四日には、秋篠宮文仁親王殿下同妃紀子殿下のご親拝を賜り、平成十八年十一月八日には、神宮祭主池田厚子様のご参拝、平成二十九年四月二十九日には、高円宮妃久子殿下のご親拝を賜りました。



小國神社のはじまりから
現代までの壮大な物語

小國神社ものがたり
ご祭神とともに

公式ウェブサイト特設ページで
スペシャルムービー公開中

小國神社ものがたり

日本の神様の物語は
『日本の良き国柄』、『伝統』、『文化』を
今に伝えています。

この物語は、静岡市在住の絵本・造形作家のたたらなおきさんよりご奉納いただいた全長約七メートルの絵物語をもとに作成をしたアニメーションです。神代より語り継がれてきたお話には、

日本人の「豊かで優しい和の心」の原点が描かれています。神々の営みの中から「正しい道筋をたてて生きてゆくことの大切さ」や、「思いやりのこころ」を学びましょう。



錦織りなす宮川のほとり

平成から令和へ

本年は、天皇陛下のご即位により「令和」の御代を迎え、我が国は次なる時代へのスタートをきりました。五月一日の「剣璽等継承の儀」から十二月に至る一連の皇位継承に係る諸儀式を拝し、天皇陛下を中心に戴く我が国は、『最古の伝統』と『最先端の文化』が見事に融合する、世界に比類無き国であることに改めて気づかされ、「日本人でよかった」と思われた方も多いことと存じます。一方で、海外の主要メディアも大変強い関心をもって報じ、昭和以前の古儀を復興した辰儀初見から始まった「即位礼正殿の儀」は、米国のCNNニュースなどで約三十分にもわたって生中継がなされました。この麗しい国柄を次世代に引き継ぐためにも、私たち国民は、日本の長く深い伝統を踏まえつつ、新しい時代における『日本の在り方』を真摯に考えてゆかなければなりません。

さて、本号の表紙に登場した、ご祭神大己貴命のご神徳の象徴でもある、打ち出の小槌をモチーフにした愛らしいマスコットキャラクターを、明神通り振興会会員(株)さのや会館代表取締役 井谷 茂様よりご奉納いただきました。名前を公募したところ二〇〇以上の候補名が挙がる中から、小國神社明神通り縁結び公式キャラクターとして、「こづち君」「こづち姫」と命名いたしました。今後は、ご参拝の皆さまに愛されるよう、小國神社はもちろんのこと、明神通り各所、各店舗など、様々なところでお目見えすることと存じます。姿を見かけた際は、親しみを込めてお付き合い下されば幸いです。

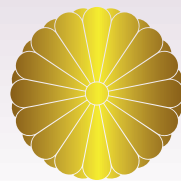
いよいよ、令和二年は十干十二支の年回り「庚子」の年となります。古事記には、ねずみは、ご祭神の危機を救った良獣として記され、当社におきましては、ご祭神が国造りを始めた年が、「甲子」の年と伝わることから「子年」は大変縁起が良い年とされています。さらには、「干支の「子」は、十二支が巡る一番始めの年に当たり、ねずみは多産であることから、子孫繁栄の意味があるとされ、世代が引き継がれ循環していく年などとして、古より、瑞兆の年とされます。この佳き年に、多くの皆さまのご参拝を心よりお待ちしております。

職員一同、神慮を畏み国の安寧と世界の平和を祈り社務に精進致したく存じます。氏子崇敬者各位のご多幸をお祈り申し上げます。

令和元年十二月十五日



巻頭 特集



奉祝 天皇陛下御即位

小國神社の祭祀で振り返る、

「平成」から「令和」へ——新時代の幕開け——

奉祝 天皇陛下御即位

慶祝 興静会祭足記念
松杓権吉

令和

小國神社

令和元年五月一日、国民の祝福を受けられ、新しい天皇陛下が御位へと登られました。新しい御代の名は『令和』と命名され、日本は新たな御代を迎える事ができました。

また、十月二十二日に宮中で行われた、「即位礼正殿の儀」では、静謐の

悠紀斎田 抜穂の儀(令和元年9月27日) 宮内庁提供



剣璽等承継の儀(令和元年5月1日) 宮内庁提供



宮代神饌田 抜穂祭(令和元年10月1日)



奉祝の空気に包まれた社頭風景(令和元年5月1日)

踐祚改元奉告祭

社頭から聞こえる喜びの声

「令和、おめでとうございます。」

奉祝の空気に包まれた令和元年五月一日、当社では、天皇陛下の踐祚(ご即位)により元号が改まったことを大神様にお伝えし、更なるご皇室の弥栄と国の発展をお祈りしました。

また、当日はお正月さながらご参拝の皆さまが訪れ、ともに天皇陛下のご即位をお祝いいたしました。

※「踐祚(せんそ)」と「即位」は、もともとは同じ意味でしたが、桓武朝(七三七―八〇六年)以降は区別されるようになったと伝わっています。現在では、同一の意味として表現されることが多いですが、本来は、天皇陛下が三種の神器を継承し、皇位につかれることを「踐祚(せんそ)」とし、「即位」は皇位につかれたことを国内外に宣明するという意味として使われます。

踐祚改元奉告祭
ご参列の皆さま



奉祝記念のご朱印を
受けられた方



中、天皇皇后両陛下が高御座と御帳台に登られ、ご即位を宣明され、安倍晋三首相が「寿詞」を奏上し、万歳三唱までに至る約三十分の厳粛な儀式の様子に、私たちは大きな喜びと感動をいただきました。天皇陛下が世界各国の国王などを始めとする国の代表者の祝福を受けられる様子が、インターネット、テレビ、新聞などで世界中で報道され、改めて、天皇陛下を戴く我が国の「有り難い」国柄に思いを致された方も多いと思います。

そして、十一月十四日未明から十五日においておこなわれた「大嘗祭」は、数ある儀式のなかでも唯一の「大祀」とされています。ご即位に係る儀式の中でも特に古い形を今に伝える貴重なもので、まごころを込めて育てられた、東日本の悠紀地方（栃木県）、西日本の主基地方（京都府）の斎田より収穫したお米などを天皇陛下御自ら神々へお供えされ、全国各地からは特産の農水産物が「庭積机代物」（にわづみのつくえしろもの）として捧げられるなか、国を挙げた儀式となりました。

本特集では、天皇陛下のご即位をお祝いし、新しい御代が益々栄えゆくことを祈念しつつ、厳粛に執り行われた天皇陛下のご即位に伴う諸儀式と小國神社にて執り行った祭祀（お祭り）の数々をお伝えいたします。

▼即位礼正殿の儀(令和元年10月22日) 宮内庁提供



▼即位礼当日賢所大前の儀(令和元年10月22日) 宮内庁提供



▲即位の礼当日祭で
挨拶を述べる宮司(令和元年10月22日)



▲即位の礼当日祭記念式典
声高らかに万歳三唱(令和元年10月22日)

深まる国民の絆

祈りの国”日本“



▲奉仕者 内山博文様(左)・筒井輝男様(右)

宮代神饌田拔穂祭

たわわに実る稲穂は

神さまからの授かりもの

令和元年十月一日、当社の神饌田で育てた稲を刈り取るお祭り、拔穂祭を執り行いました。刈り取られた稲は大嘗祭当日祭にてお供えをいたしました。稲刈りのご奉仕は、宮代神饌田の奉耕者で当社総代の内山博文様と前奉耕者の筒井輝男様です。

即位の礼当日祭

(即位ノ礼ノ当日ニ行フ祭祀)

平和で豊かな大御代が末永く続くように

令和元年十月二十二日、雅な王朝絵巻が現代に蘇った「即位礼正殿の儀」や「饗宴の儀」では、国民、また世界中からの祝福をお受けになられる天皇陛下のお姿がインターネット、テレビ、新聞などで報道され、私たちのみならず諸外国の人々にも深い感動を与えて下さいました。当社では、当日に即位礼当日祭を斎行し、天皇陛下が皇位につかれたことを内外に明らかにする旨を大神様にお伝えし、平和で豊かな大御代が末永く続くようにと祈りを捧げ、ご皇室の安泰をご祈念申し上げます。祭典の後、奉祝式典をおこない祭員、参列者全員で国歌斉唱、万歳三唱をおこないました。

当日は、静岡新聞社の記者が取材にも訪れ、当社で設置した記帳所に訪れた老若男女にインタビューを行っていました。

記者に対し、皆さま一様にご即位の慶事の喜びを語っている姿が印象的でした。

臨時大祓式

宮中において、大嘗祭の二日前には玉体（天皇陛下のお身体）を清める御禊と、ご皇族の方々や宮内庁の大礼委員などを祓い清める「大祓」が行われます。

当社におきましても、令和元年十一月十二日午後三時に、国土と人々の罪や穢を祓う臨時大祓式を斎行し、大嘗祭当日祭に臨みました。



▲臨時大祓式 大麻で天地を祓う
(令和元年11月12日)



▲大嘗祭当日祭
(令和元年11月14日)



▲奉祝の記帳をするご家族
(令和元年10月22日)



▲即位の礼当日祭
記念式典での国歌斉唱

大嘗祭当日祭

(大嘗祭ノ当日ニ行フ祭祀)

ご即位の喜び、

日本の国の歴史と伝統に思いを致し

皇居・東御苑に建設された、大嘗宮において、皇位継承の重儀で天皇陛下御一代に一度限りの儀式「大嘗祭」（十四日夕刻〜十五日未明）が行われる十一月十四日の午前、当社では、大嘗祭当日祭を斎行いたしました。

当日は、責任役員、総代をはじめ、森町長太田康雄様など一二四名が参列になりました。また、ご神前には、松尾貞子様よりトウモロコシや椎茸などの新鮮な野菜や烏骨鶏苑様による烏骨鶏の玉子など数々のお供えものが捧げられるなか、一同、平和で豊かな大御代が末永く続くようにと祈りを捧げ、ご皇室の安泰をご祈念申し上げます。

即位・大嘗祭の当日に神社で行う祭祀の起源は古く、「神祇令」に「凡天皇即位惣祭天神地祇」（およそ天皇が位に即いた時は、すべて天神地祇を祭りなさい。）とも記されています。古代においても、国を挙げて天皇陛下のご即位、大嘗祭に際し、国中に鎮まる八百万の神々に祈りを捧げていることがわかります。

また、GHQによる占領政策の一つ「神道指令」により失効しましたが、※「大正四年の勅令第一〇九号」にもその旨が記されています。

現代においても、その精神と神々を祭る伝統は、途切れることなく繋がり、両日の祭典日を迎えました。



▲大嘗宮の儀（令和元年11月14日未明～15日） 宮内庁提供



▲一般公開された大嘗宮 多くの人々が拝観され、120分待ちの列ができていました（令和元年12月6日）

大嘗祭の意義

「神代の風儀をうつす」

日本列島に稲作が広まったのは二、〇〇〇年以上前の弥生時代とされています。それ以後、お米は日本人の食生活に不可欠なものとなりました。

今から二、三〇〇年前（養老四年）に完成した『日本書紀』の冒頭には、ご皇室のご始祖と仰がれる天照大御神が、その子孫に対して「吾（わが）高天原（たかまのらは）にきこしめす齋庭（ゆにわ）の穂（いなほ）を以て、また吾が児（みこ）にまかせまつるべし」という神勅を下されたと伝えられています。

また、天照大御神が人間の「食ひて活くべき物」として陸田（畑）の「粟・稗（ひえ）・麦・豆」と水田の「稲」が出現したことを喜ばれたとも伝えられています。大嘗祭の意義については、さまざまな説が提唱されてきました。しかし、平安時代中期の『延喜式』などから、天皇が皇祖神から授けられた食べ物を神々にお供えし、御飯・御粥と白酒・黒酒を御自ら召し上がりになることで、「皇御孫命（すめみまのみこと）」としての霊威を更新され、「日本の国の平和」と「国民の末永い平安」そして「世界の平和」などを祈られる大切な祭であることがわかります。

このことから、大嘗祭は国民あげての日本でもっとも崇高なお祭りであり、日本の始原を示すものであるといえます。そこに、『神代の風儀をうつす』、皇位継承の最重要儀式と呼ばれる所以があります。

ご皇室の”祈り”は

「国民とともにある」祈り

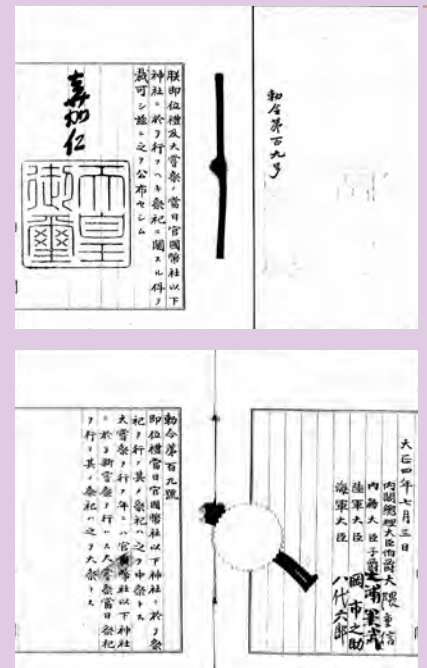
ご即位の喜び、日本の国の歴史と伝統に思いを致し



▲大嘗祭当日祭 玉串拝礼をする森町長太田康雄様



▲大嘗祭当日祭御本殿の御扉を開扉する宮司



▲※大正四年勅令第百九号に記された即位・大嘗祭の当日に行う祭祀

（出典：国立公文書館デジタルアーカイブより）

興静会

「令和」書奉納大会

受賞作品結果発表

主催 興静会

協力 遠江国小國神社

本年七月一日より、九月三十日にかけて開催した「令和」書奉納大会では、全国より「令和の時代を素晴らしい時代にしてゆきたい」との真摯な祈りが託された渾身の作品が多数寄せられました。

去る、令和元年十一月十七日に、書家杭迫柏樹先生、書家中澤臯揚先生、興静会会長当社宮司による厳正な審査がおこなわれました。ご奉納いただいた約二、五〇〇点の作品から、受賞作品七作品を選出されましたのでご紹介いたします。

今後も興静会では杭迫先生の思いを受け、「書」を通して「郷里」、「国」、「世界」の文化興隆に寄与してまいる所存です。

令和の時代への

「祈り」を「書」に

託して

受賞作品 (全7作品)

興静会奉納大会記念賞(大賞)



織部雄山(69歳) 菊川市

願い事 五風十雨

- 筆力が漲っていて騒がず、見事という他ない傑作。「令和」の新時代にふさわしい書。(杭迫柏樹)
- ご神木を彷彿とする抜群の迫力・風格のある堂々とした作。(中澤臯揚)

杭迫柏樹賞(大人の部)



森重粹紅(純子)(37歳) 周智郡森町

願い事 家族がいつまでも楽しく仲良く

- 爽やかで清々しい空気が見事。(杭迫柏樹)
- 切れ味のある線で仕上げたことから流麗さと爽やかさある作品となった。(中澤臯揚)



第1次選考をおこなう中澤臯揚先生 ▲



様々な書体・書風の作品が奉納となりました ▲



第1次選考をおこなう杭迫先生と打田会長 ▲

杭迫柏樹賞(子供の部)



鈴木南波(17歳) 浜松市中区

願い事 無病息災

- 素直で新鮮な書きぶりが見事。(杭迫柏樹)
- 欧陽詢書法を追求し、高校生としての探求作の範となる作。(中澤臯揚)

中澤臯揚賞(大人の部)



永嶋早苗(41歳) 静岡市駿河区

願い事 娘が元気にすくすくと大きくなりますように

- 北魏風の重厚な秀作。(杭迫柏樹)
- 硬くなりがちな六朝楷書の中に柔軟性を加味することで温和な作品となった。(中澤臯揚)

中澤臯揚賞(子供の部)



落合咲幸(13歳) 浜松市天竜区

願い事 充実した毎日が送れますように

- 大らかで暖かさの感じる秀作。(杭迫柏樹)
- スケールの大きい雄大な書風は、風土性から生まれたものでしょう。これを切に。(中澤臯揚)

宮司賞

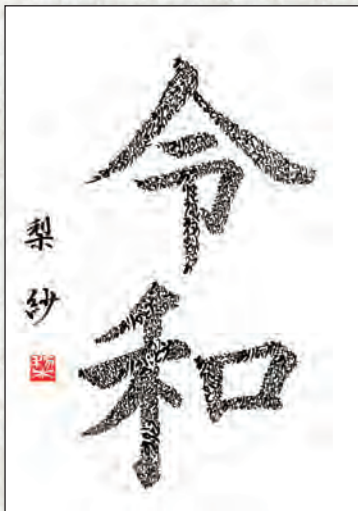


金山桜夕(37歳) 浜松市中区

願い事 戦争のない世界になりますように

- 誌面いっぱいに大らかにひろがってしかも落ち着いた秀作。(杭迫柏樹)
- 気力の充実した線質が抑揚となり穏やかに上品な作となった。(中澤臯揚)

宮司賞



稲葉梨紗(39歳) 磐田市

願い事 「ありがとう」でいっぱいの令和になりますように

- 「ありがとう」でうめつくされたデザイン性豊かな秀作。(杭迫柏樹)
- ユニークな発想作。一字一字の「ありがとう」に心が宿り気迫と願望が表出した作。(中澤臯揚)

※詳細は次号にも掲載します。

興静会の活動について

今後、先生の熱誠に応えるべく、当会では、左記のような活動をおこなってまいります。

- 公共施設への作品奉納及び寄贈
- 新元号「令和」書 奉納大会
- 揮毫機会の創出
- シンポジウム・講演会・研究懇談会等の開催
- 筆塚の建立と筆感謝祭・筆供養などの開催
- その他関連する活動など

入会のご案内、ご相談は
興静会事務局(小國神社内)
電話 一〇五三八) 八九一七三〇二
年会費一〇、〇〇〇円

しての活動のため、教職の辞職を決意。以後、日展内閣総理大臣賞(平成17年)、日本芸術院賞(平成20年)、京都府文化功労章(平成22年)、紺綬褒章(平成26年)など多数の賞を受賞。日本を代表する書家として、国内外で活躍中。

- 現職
(公社)日展名誉・特別会員・(公社)日本書芸院名誉顧問・(公社)全日本書道連盟顧問・(公財)全国美術振興会顧問・読売書法会最高幹部会会議議長・顧問など多数



プロフィール
書家
くわいせこ ぼくじゅ
杭迫柏樹

昭和9年、静岡県周智郡森町に生まれる。幼少より書に親しみ、毎日大きな硯に大量の墨をすり、なくなるまで書くほどに熱中する。書家を志し、京都学芸大学美術科(書専攻)へ入学、卒業。現代書道の巨匠、村上三島に師事、後に日展初入選を果たす。本格的な書家と

第六十三回奉納農産物

品評会開催

催



●小國神社賞

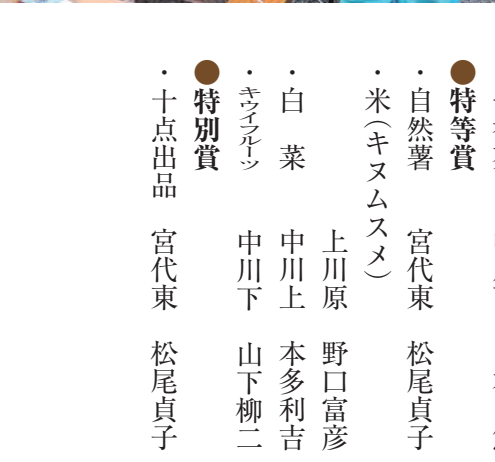
本年は、天皇陛下のご即位に伴う、大嘗祭当日祭を十一月十四日に斎行したことから、十一月二十三日は、甲子祭斎行に引き続き、小國神社振興会による奉納農産物品評会・即売会の開催となりました。本年は、悪天候の影響が懸念されましたが、見事な奉納農産物が並びました。全一七〇点もの農産物をご奉納いただきました。

即売会には多くの人々が訪れ、高品質、低価格の農産物を買求め、大変な賑わいとなりました。

ここに、品評会で受賞された方々をご報告申し上げますとともに、篤く御礼申し上げます。

▲大盛況の即売会
あつというまの
完売

▲品評会・即売会の
ご奉仕をする会員ら
(令和元年11月14日)



●遠州中央農業協同組合理事長賞

- ・生 姜 宮代東 高木耕二
- ・治郎柿 円田下 北島恵介
- ・玄 米 中川上 鈴木定男
- ・茶 中川上 本多利吉
- ・白 菜 牛 飼 村松伊佐雄

●小國神社振興会賞

- ・ゴッソー 宮代東 松尾貞子
- ・里 芋 赤 根 鈴木正利
- ・ミトマト 赤 根 藤田昌宏
- ・米(キヌムスメ) 円田上 鈴木伸明
- ・ 中川下 山本 篤

●特等賞

- ・自然薯 宮代東 松尾貞子
- ・米(キヌムスメ) 上川原 野口富彦

- ・白 菜 中川上 本多利吉
- ・キヌムシ 中川下 山下柳二

●特別賞

- ・十点出品 宮代東 松尾貞子



平成三十一年・令和元年

篤志奉納者へ感謝状贈呈

大嘗祭当日祭に併せ、昨年十一月より本年十月までに、大前にご奉納された皆さまへの感謝状贈呈式を行いました。

本年は、もみじをご奉納頂いた(株)庭政 代表取締役 鈴木直人様、芝桜二五〇〇本をご奉納頂いた一宮小学校昭和四十年卒業生代表平田一利様をはじめとする四名の皆さまに感謝状を贈呈いたしました。

ここに、ご奉納品名とご芳名を掲載し、改めて篤く御礼申し上げます。

●紅葉 一本 (株)庭政 代表取締役 鈴木直人

●日陰つつじ 十本・遠州シシヤくなげ 三本 (有)正木樹芸研究所 正木伸之

●芝桜 二五〇〇本

一宮小学校昭和四十年卒業生 代表 平田一利

●神饌米(九年連続ご奉納)

兼子弘史・兼子友秀

(順不同・敬称略)

(株)庭政 代表取締役 鈴木直人様 ▼



神饌米奉納者 兼子友秀様 ▼



神々とお祭り

私たちの祖先は、かみまつ神祭りのなかから生き方を学び信仰の礎としてきました。

また、古くからの伝承や歴史をふまえ、豊かに暮らす知恵を生活のなかに生かし、神々と生活をともにしてきました。

毎年同じ時期にお祭りが繰り返し行なわれ、私たちはその中で信仰や文化をかたちづくってきました。

「お祭り」とは、

日本の伝統にもとづいて、神々に対する祖先のこころを今に伝える大切なかたちです。



社 眞 力 静

袋井ベトナム友好協会留学生のご参拝

国際交流の舞台は小國神社!!

七月二十日(土)に、袋井ベトナム友好協会(会長・浅羽一芳)皆さまがご参拝になりました。当日は、留学生二〇名が正式参拝をした後に、研修室で浅羽一芳会長による日本の伝統文化と日越の友好についての講義が行われました。

ベトナム独立史を辿る上で、遠江国山名郡梅山村(現在の袋井市)の浅羽佐喜太郎と「日本賞賛論」を掲げたベトナムのファンボーイチョウとの交流は、フランスによる植民地支配からの独立への大きなきっかけとなりました。

七十五年たった現在もその友好関係は変わりません。これからも、互いの国の伝統や文化を尊重しながら、より良い関係を築いてゆけるように私たちも常に努めていかなければなりません。

袋井ベトナム友好協会の留学生



松尾神社上棟祭での餅撒きの様子



神道を学ぶ 袋井市豊沢地区町づくり協議会

小國神社は生涯学習の場でもあります

令和元年九月一日(日)に袋井市豊沢地区町づくり協議会の皆さまがご参拝と研修に訪れました。

正式参拝の後は、社務所にて、当社の歴史や神社神道についての講話をおこないました。町づくり協議会の皆さまは、熱心に耳を傾けられ、様々な質問もあがりました。また、「遠江の地(今の遠州地方)の護り神として、袋井市もそのご加護にあずかっていることは大変ありがたい」や「素晴らしい伝統や文化の宝庫である神社を護ってゆくことが大切」であるなどの意見もあがりました。

兼務社松尾神社上棟祭の斎行

氏子地域の安寧と反映を願い、 社殿の再建へ!!

大山(おほやま)神(かみ)をお祀りする松尾神社の創建は古く、安政三年の文書にもその記録が伺えます。当社の末社(現在は兼務社)として明治年間に現在の地に鎮まりました。以来、赤根地区の鎮守様として現在にいたります。

しかしながら、平成三十一年一月二十七日、心ない放火により本殿以下社殿、社務所が消失してしまいました。

その後、氏子、総代の皆さまによりいち早く再建の声があがり、松尾神社建設委員会を立ち上げ、がれきの処理や再建に向けた協議を重ね、令和元年九月十四日(土)にめでたく上棟祭を斎行することが叶いました。

神道講話の様子 (9月1日)



富士山本宮浅間大社氏子青年会との交流

富士山本宮浅間大社氏子青年会の皆さま



富士山本宮浅間大社氏子青年会との交流

小國神社氏子青年会との交流も実現!!

八月十八日(日)、駿河国一宮の富士山本宮浅間大社の氏子青年会のご一行がご参拝になりました。当日は、当社氏子青年会会長の筒井真司様、当社氏青OBで現在、全国氏子青年協議会の岩瀬公紀全国理事らも駆けつけ、同志を出迎えました。

各単位会活動の情報交換や、神社を中心とした地域作りについての意見交換なども活発に行われていました。

新時代の日本の担い手として、かながらの大道に従い、明るく豊かな社会の建設を目指し日々活動をしてまいります。

第十期遠州とこわか塾開塾!!

常に心のアンテナを高くして、感性を高める

九月二十七日(日)第十期第一回目の『遠州とこわか塾』を開催いたしました。講師に、北朝鮮による拉致被害者家族連絡会事務局長の横田拓也先生をお招きし、拉致問題の実情と被害者すべての即時一括帰国の実現に向けた世論後押し的重要性についてお話をいただきました。

先生は、「北朝鮮の意識は対米であることを認識し非核化と拉致問題を切り離すことなく、交渉を進めることが重要である。」と述べられました。

わたしたちは、この問題を風化させず毅然とした国民の姿勢を北朝鮮に示すことが何よりも大切です。

▲遠州とこわか塾



▲北海道森町 友好親善団の子供たち



北海道森町児童生徒 友好親善団のご参拝

森町の子どもたちがおもてなし!!

七月二十七日(土)に友好町である、北海道森町の児童友好団が参拝にきました。両町の児童たちは、旧知の友人のように笑いあいながら楽しそうに交流を深めていました。

また、当社に一三〇〇余年前より伝わる「古式十二段舞楽」の説明の際には、北海道森町の児童がその歴史の深さに、「森町(北海道)にはそんなに古くから続くものはないです。」と感嘆の声を上げていました。正式参拝へ向かう、児童らの真剣な眼差しが大変印象的でした。

参拝の後は、小國ことまち横丁で思い思いにお土産を買って帰って来ました。



▲日本の神話に親しむ会の皆様

もみじまつり

秋色に染まるご神域で賑わいのひとときを

十一月二十四日(日)に小國神社の秋を彩る賑わいの催し「もみじまつり」を開催いたしました。

境内各所では、鈴木玉詩江恵様ご一行による和琴の奉納演奏や縄巻修己様による尺八奉納演奏の優雅な音色が響き渡りました。

また、本年は裏千家大須賀喜久子先生らによる天皇陛下のご即位を奉祝した呈茶席なども行われ賑わいの一日となりました。

ご参拝の皆さまが風情を楽しみながら、散策を楽しまれました。

「日本の神話に親しむ会による 小國神社ものがたり」の上演会

地域のお母さんが優しく語り伝える

令和元年十月二十日(日)、日本の神話に親しむ会(代表たたらなおき)の皆さまによる読み聞かせ上演が行われました。日本の神話に親しむ会は、日本の伝統や文化を大切にしながら地域のお母さんたちが活動しています。

絵本造形作家のたたらなおきさんの作品を中心に繰り広げられる心温まる活動は、多くの人々を魅了しています。

本年は、古事記絵巻「国生み」と「小國神社ものがたり」の二作品が上演されました。色鮮やかに躍動感溢れる作品と読み手の優しい声に子どもたちは目を輝かせて物語を楽しんでいました。

日頃より、日本の神話や伝統、地域の逸話に親しむことは心を豊かにし、郷土愛を育みます。



▲伊勢山皇大神宮創建一五〇年 記念事業でのご参拝(9月28日)



▲防災訓練の実施(9月24日)



▲坪井聡弥さんご一家、三つ子のお宮参り(11月3日)

温かい我が家

年が改まり、心も改まる
日本中が「おめでとう」の
声につつまれる



暮らしに生きる「神道」

お正月

「明けましておめでとうございます」年が明けると日本中がこの言葉に包まれます。「おめでとう」と挨拶をされると、誰もが「おめでとう」と答えます。慣れ親しんだ光景ですが、「お正月」が私たちの暮らしにおいて特別なものであることがわかります。

神代より、日本人は稲作を中心とした生活を営んできました。春に蒔かれた籾は早苗となり、初夏の田植えを経て、秋には黄金色の稲穂をたわわに稔らせます。そして、冬になるとお米の一粒一粒が新しい生命を蓄え、巡り来る春を待ちます。私たちの祖先は、この時のながれを「年(歳)」と呼ぶようになりました。

お正月は、単に一年の始まりだけではなく、農事を始める前に、その年が豊作であるように神さまにお祈りする大切な神まつり(予祝)でした。

今日では、本来の意味が忘れられがちですが、お正月は『神さまと人とを結びつけ、家庭の和を育む大切な伝統行事』の一つです。

「お正月」は、神さまと人を結びつけ、家庭の和を育む。

お正月は歳神さまをお祀りする神事

お祀りする神事

わらべ歌の中に

「お正月さまがごーざった

何処までごーざった 神田までごーざった

何に乗ってごーざった 交譲木(ゆずりは)に乗って

ゆずりゆずりごーざった」

という歌があります。お正月の訪れを指折り数えて待つ子どもたちの姿が目につかびます。昔も今も変わらない心持ちではないでしょうか。

さて、ここで出てくる「お正月さま」は「歳神さま」のことで、年の始めに家を訪れ、家族に幸せを授ける神さまです。

この歳神さまは稲の魂であるとともにご先祖さまの御霊と一体のものであるとの信仰があります。

年末からお正月にかけて行なわれる様々な行事は、すべてこの歳神さまをおまつりするのためのものなのです。



歳神さまをお迎えするための

年の暮れになると、どこの家庭でも大掃除をして、お正月を迎える準備をおこないます。大掃除のときには、神だなや御霊舎を綺麗にし、お神札も新しくします。玄関に注連飾りや、門松を飾るのは、その場所が清浄であると示し、歳神さまを家にお迎えする目印となります。そして、鏡餅を飾って歳神さまにお供えをします。



近年では、核家族化や住環境の変化によりマンションや洋室などでお正月を迎える場合、「門松を飾る場所がない床の間がない」という方も多いためではないでしょうか。そのような場合は、市販の正月飾りを用いたり、タンスや飾り棚の上に鏡餅をお供えするとよいでしょう。何よりも大切なことは、清々しい気持ちで迎春準備を整え、真心で神さまをお迎えすることです。

新しい年、新しい

お神札、お守りを

特別奉製 生活空間にそと寄り添う縁起物
庚子 小國神社干支土鈴
(授与料一、五〇〇円)

小國神社と土鈴の出会い、民俗学者折口信夫の高弟鈴木正彦先生が多年の研究の中で収集した一万数千点の土鈴が、多くの方々のご縁により小國神社に寄進されたことに始まります。

令和二年は、令和最初の『子年』で十二支始まりの年にあたり、さらには『子(ねずみ)』は、大口貴命(大國主命)の命を救った良獣でもあることから、神社にお参り下さる皆さまの幸せを願い、他では手にすることができない独自の土鈴を奉製いたしました。

生活空間に寄り添う、手のりサイズの可愛らしい縁起物です。

作り手

- 岡本政志…張り子作家で、干支土鈴の型を作成。暖かみと優しさ溢れる作品が特徴。
- 中野日和…三重県桑名市在住の画家、改組日展、光風会展など多数入選。
- 干支土鈴の総合デザインなど担当。
- 渡辺誠弥…三重県桑名市在住、元NHKアナウンサーで文筆家。カフェテラス「ブナの木」で蕎麦も打つ。封入されている「干支土鈴の吉祥縁起ばなし」の監修など担当。

晴れやかに



特別奉製 絵馬師 永崎ひまる謹製
干支絵馬付き破魔矢 (授与料一、〇〇〇円)

昨年もお好評いただきました、絵馬師の永崎ひまるさんがデザインをした、干支絵馬付き破魔矢を本年もお正月より授与いたします。

本年の干支絵馬は、「古事記」・「日本書紀」において、ご祭神を助けた良獣ねずみの親子が力を合わせて大きな、大きな打ち出の小槌を担ぎ上げている姿がデザインされた縁起の良い図柄となっております。本作品は、ご祭神とご縁の深い年を迎えるにあたり、よりご加護をいただけるようにとの願いを込めた、当社でのみ受けることができる特別な授与品となっております。

『絵馬』の歴史を知りましょう。

祈願または祈願成就の感謝の証として神社に奉納する、馬の絵を描いた額のことを「絵馬」といいます。

日本では古くから、神さまの乗り物として馬が神聖視され、お祭りや祈願のときに生きた馬を奉納する風習がありました。その代わりとして、板に馬の絵を描き奉納するようになったのが絵馬の起源とされています。

現代では、図柄は多様化し、病氣平癒を願う絵馬や安産や子育てなどの絵馬が次第に増えてきました。最近では入学祈願や就職、良縁を求めるための絵馬が増えています。



特別奉製

開運招福のカード守り

〜ご参拝の皆さまの声により
授与を始めます〜
(授与料一、〇〇〇円)



昨年は、令和の御代を迎え、多くの人々が社頭に訪れ大変な賑わいとなりました。以前から、ご参拝の皆さまより財布に納めることができる薄い形のお守りを頂きたいとの声は上がっていました。近年、スマートフォンやIC系の交通カードをお持ちになる方が増える中、それらを納めるケースの中に、お守りを頂きたいとの声も聞こえてまいりました。

このたび、皆さまの一層の幸せを願い、薄型で様々なケースにも納めることができる開運招福のカード守りを奉製いたしました。小國神社のご祭神、だいきく様とご神徳の象徴である打ち出の小槌が描かれた縁起の良い独自のお守りとなります。

時代が変わっても、神さまのご加護は変わることはありません。多くの皆さまに、より身近にお守りをお持ちいただけますようご案内いたします。



プロフィール

永崎ひまる

絵馬師・和風画家・作家
平成二十七年年度
神道文化賞受賞



伊勢の神宮をはじめ、宗像大社など数々の神社に大絵馬を奉納。平成二十八年には、伊勢志摩サミットを記念した大絵馬を安倍首相に献上。

また、二〇一四グルマン世界料理本大賞イラストレーション部門のグランプリに選出、読売新聞の書評欄「本よみうり堂」などでも紹介される。

絵馬をはじめとする様々なイラストレーションやデザインを通して日本の文化を世界に広める活動を展開している。



二〇二〇年 かのえね
令和二年庚子年(ねずみ)



春に祈る、充実した
一年を願って

今年も、小國神社では、一月二
〇(日)〜二月三日(月)まで厄除大祭
(やくよけたいさい)を執り行い
ます。厄年のお祓いをはじめ八方
塞除け、黒星災難除け、災い除け
など諸々のご祈禱をご奉仕いたし
ます。祈禱受付でお申込み下さい。
(初穂料五、〇〇〇円から)

子年とは？
小國神社と
子年(ねずみ)

小國神社では特に大切にしている
年の一つです。干支の子(ねずみ)
は、十二支が廻って、一番目の始ま
りの年となり、子はすぐに子ねずみ
が増えて成長することから、子孫繁
栄の意味があるとされ、世代が引き
継がれ、循環していく年などと言
われます。

ご祭神大己貴命(だいきく様)が
国造りを始めたのが、甲子の年と当
社に伝わることから「子年」は大
変縁起が良いとされています。

大國様とねずみ

古事記の記述によると、当社のご祭
神である大己貴命(大國主命)が須
佐之男命より試練の火攻めを受け、
広野の中で野火に囲まれて身動きが
取れなくなっていた際、ねずみが足
元の大穴を「内はほらほら 外はす
ぶすぶ」と指し示し、大己貴命はそ
の穴に飛び込み、火が燃えすぎるの
を待つて助かったという神話が残り
ています。

まさに、ねずみは小國神社のご祭
神大己貴命の命の恩人といえます。

子年のよもやま話

「甲子園球場」の完成は大正十三
年(一九二四年)八月一日です。こ
の年は、奇しくも、十干、十二支の
それぞれ最初の「甲(きのえ)」と
「子(ね)」が六十年ぶりに出合う
年でした。縁起のよいこの年にちな
んで、この付近一帯を「甲子園」と
名付けたのはじまりです。

厄年とは？

古くから日本に伝わる考え方で、身の回
りの凶事・体調不良など様々な難を招きや
すい年とされています。

男性は二十五歳・四十二歳・六十一歳、
女性は十九歳・三十三歳、三十七歳が「本
厄」の年とされ、前後の年齢を「前厄」「後
厄」と言います。

これらの年は神事で重要な「役(やく)」
を担う風習があったことから、厄年の語源
であるとも言われています。神さまに失礼
のないよう慎み、心身を清浄にするため、
ご祈禱を受けたのが厄除のはじまりと考え
られます。



厄年の過ごし方

厄年には、人生の節目を大切にした生活の
知恵や教訓が込められています。

身体の変調期や生活環境の変わり目にあつ
り、体調を崩しやすいときに重なります。

厄除祈禱の際に授与されたお神札をおまつ
りし、お守りを身近に持って、健康に留意し
ながら慎重深く生活することが大切です。

無事に年を重ねたことの喜びをかみしめ、
神々に「生かされている」ことを感じ、日々
の家庭のおまつりを通じて清々しい心で生活
したいものです。

令和2年1月20日(月)〜2月3日(月)

令和2年八方塞がり・黒星一覽表

八方塞がり【七赤金星】 万事に慎重を要する年まわりと言われています		黒星【三碧木星】 運気が低迷する年まわりと言われています	
昭和 23 年	73 歳	昭和 18 年	78 歳
昭和 32 年	64 歳	昭和 27 年	69 歳
昭和 41 年	55 歳	昭和 36 年	60 歳
昭和 50 年	46 歳	昭和 45 年	51 歳
昭和 59 年	37 歳	昭和 54 年	42 歳
平成 5 年	28 歳	昭和 63 年	33 歳
平成 14 年	19 歳	平成 9 年	24 歳
平成 23 年	10 歳	平成 18 年	15 歳

※上記の年齢は数え年です

令和2年厄年一覽表

男 性			女 性		
前 厄	本 厄	後 厄	前 厄	本 厄	後 厄
昭和36年	昭和35年	昭和34年	昭和60年	昭和59年	昭和58年
60歳	61歳	62歳	36歳	37歳	38歳
昭和55年	昭和54年	昭和53年	平成元年	昭和63年	昭和62年
41歳	42歳	43歳	32歳	33歳	34歳
平成9年	平成8年	平成7年	平成15年	平成14年	平成13年
24歳	25歳	26歳	18歳	19歳	20歳

※上記の年齢は数え年です



天皇陛下 御即位記念

令和の

お屋根替え

次世代へ繋ぐ 祈り・技・美



ご奉賛のお願い

小國神社では、令和の御代替わりをお祝いし、天皇陛下御即位記念『令和のお屋根替え』〜次世代へつなぐ祈り・技・美〜を、四年の歳月をかけ、御本殿以下社殿群のお屋根の葺き替え工事をおこないます。

当社の御本殿以下社殿のお屋根は、日本唯一の伝統技法「檜皮葺」（檜の皮で屋根を葺く技法）で葺かれた屋根です。古来より、その造形の柔らかな曲線と風合いに代表される繊細な優美さは、日本の風土と調和してきました。古典文学「枕草子」には、『雪は檜皮葺、いとめでたし。すこし消えがたになりたるほど。』と綴られ、白雪と檜皮の屋根が織りなす色の絶妙なコントラストが風情豊かに表現されています。

また、定期的な葺き替えが必要であることが示すように、材そのものの美しさを喜び讃え、清らかな状態を大切にしてきた私たちの祖先が造りだした「日本の美」であり、古より変わることのない神様への「祈り」が、その「技」と「美」を護り伝えてきました。

しかしながら、現在、御本殿以下社殿のお屋根は、古いものでは六十余年、新しいものでも四十余年の月日が経過しております。檜皮を使ったお屋根はたびたび補修を施して参りましたが、耐用年数を考慮するとき、葺き替え工事に着手するべきと判断致しました。

つきましては、ご祭神、大己貴命が鎮まる御本殿をはじめ社殿の常若（いつまでも若々しくあること）に努め、先人が護り伝えてきた、「祈りの精神文化」と貴重な「伝統技術」を次世代につなぎ、より一層神さまのご加護を戴けますよう、本事業を進めて参りたく存じます。

世情厳しい折かと存じますが何卒、趣旨をご理解いただき、ご支援、ご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

遠江国一宮 小國神社

小國神社崇敬奉賛会

天皇陛下御即位記念事業「令和のお屋根替え」

宮司 打田 文博

会長 鈴木 覺

募財委員会委員長 松井 宏悦

募財期間：令和元年 8月 1日から
令和 5年10月30日まで

総 予 算：3億5,000万円

工期日程

- | | |
|-------|--|
| 第1期工事 | 令和2年1月14日～ 3月31日：真名井
令和2年2月12日～10月20日：神徳殿・渡り殿 |
| 第2期工事 | 令和3年2月12日～10月30日：御本殿
令和4年2月12日～ 5月30日：並宮 |
| 第3期工事 | 令和4年4月20日～12月10日：拝殿
令和5年2月12日～10月30日：中門、幣殿 |

お屋根替えにともなう主な文化事業 (葺き替え工事現場見学会)

屋根葺き替え作業の様子を一般公開いたします。
日程、お申し込み方法は、改めてお知らせいたします。

ご寄付に関する詳しいお問い合わせは、
小國神社崇敬奉賛会事務局までお願いいたします。

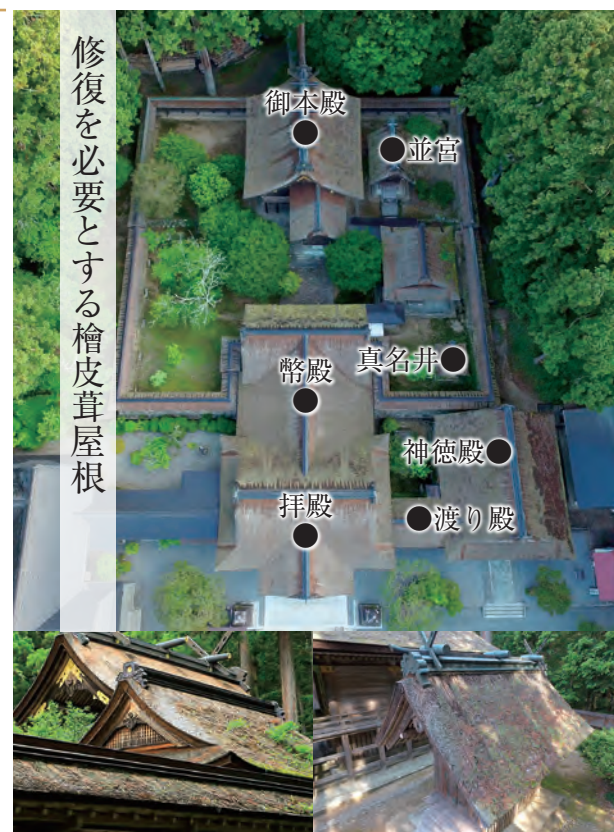
○お問い合わせ先：小國神社崇敬奉賛会事務局
〒437-0226 静岡県森町一宮3956-1
電話：0538-89-7302 Email oyanegae@okuninjinja.or.jp
「令和のお屋根替え」～次世代へつなぐ祈り・技・美～
公式WEBサイト okuninjinja.or.jp/oyanegae/

奉賛金について

▶永い年月に亘って雨風に晒された屋根は、損傷や経年劣化、植物の侵食などが確認できます。

社務所にてお申し込みができます。
(その他の方法を希望の方は事務局までお問い合わせ下さい)

修復を必要とする檜皮葺屋根





令和のお屋根替え

檜皮葺

ひわだ
ぶき

一三〇〇年にわたって継承される、
優雅な造形美と日本の風土に適応した
「用と美」の伝統技法

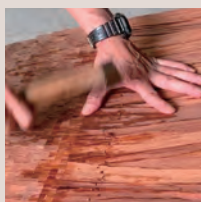
小國神社のお屋根は、日本古来の伝統技法「檜皮葺」（檜の皮で屋根を葺く技法）で葺かれた屋根です。

飛鳥時代に広まり、奈良時代では上級建築に用いられ、平安時代には最も格式の高い屋根工法となり、神社建築などに用いられました。

樹齢百年以上の檜を伐採することなく皮だけを採取し、職人の手によって仕上げられる檜皮葺屋根は、三十年以上の雨風から御社をまもる機能性と繊細で美しい曲線美を兼ね揃えた、国外には例を見ない日本特有の文化資産としても認知されています。

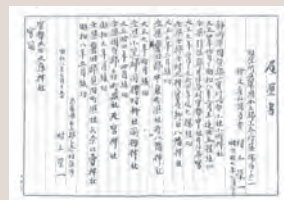


拝殿前奉賛所にて
特別展示中です。



株式会社 村上社寺工芸社

大正4年創業。兵庫県丹波市で100余年の歴史をもつ。日本古来の技法で、国の選定保存技術に指定されている檜皮葺・柿葺・茅葺の職人技術を持ち、国内の国宝・重要文化財等社寺仏閣の屋根を葺く。創業年に「遠江国一宮 小國神社 檜皮葺屋根の葺替え」を施工した記録が残る。



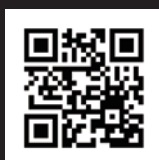
創業当時の記録

職人紹介



檜皮を整える村上社寺工芸社の職人達

YouTube



綴皮工程の動画が
ご覧頂けます。

職人の技【片手で竹釘を打つ】



20~30 本程の竹釘を口に含み、舌を使って一本ずつ口から釘を出します。金槌を握る手で釘を掴み、屋根金槌の「伏金」と呼ばれる部分で檜皮に差込み、金槌で打ち込みます。金槌の格子状の溝により竹釘の頭が潰れ、抜けにくい形状で完全に打ち込まれます。

YouTube



片手釘打の動画が
ご覧頂けます。

天皇陛下御即位記念

令和のお屋根替え

次世代へつなぐ祈り・技・美

『ご奉賛の皆さま』

お陰をもちまして、多くの皆さまに天皇陛下御即位記念「令和のお屋根替え」の趣旨をご理解頂き、ご支援、ご奉賛を賜りますこと篤く御礼申し上げます。ご奉納頂いたご浄財は造営資金として大切に活用させていただきます。職員一同、更なるご神徳の発揚に努めて参りますので、今後も変わらないご崇敬を賜りますれば幸いに存じます。ここに、ご芳名を掲載し、改めまして重ねて御礼を申し上げます。

●三百萬円以上

小國ことまち横丁

京都奉製(株)
正田 聡
岩瀬 静夫

●壹百萬円以上

打田 文博
松井 宏悦
依藤 道夫

●参拾萬以上

長野 律子
岡野建設株式会社
代表取締役
岡野 良隆

●五拾萬円以上

土屋 克彦
梅林 布男
近藤 哲朗
小澤 芳巳
筒井 輝男
松井 國雄
平田 辰夫
鈴木 篤
セルコ(株)
代表取締役
西川 和宏

●壹拾萬円以上

山田 周弘
山田 孝
森越 靖幸
鈴木 成宜
鈴木かをる
(株)メディアアトック
代表取締役社長
近藤 元子

●壹萬円以上

森松 健次
大場ひで子
鈴木 正見
大場 伸江
太田 弘行
平田 朱美
村松恵美子
森 景美

寺田石材工業(株)
寺田 圭佑

太田 茂雄
小島 幸高
佐原 正博
山本 直彌
渡邊 正守
太田 邦彦
川端 一弘
神宏クリーニング
サービス(株)
代表取締役
神馬 宏史

足立 順司
梶谷 友香
石黒 洋子
倉見 宣雄
小泉 純一
幡鎌 正周
今場 新司
(有)袴田防災設備
竹内 宏行

●金一封

平田 一利
おそうじ屋さん
清水店
亀川 一也

稲川 秀樹
七清クラブ
村松 生雄

伊藤 優太
土屋 昌代
北野紗古名
黒木 智子
黒木 久司
根本 信行
大鹿 貴子

竹内 鈴子
竹内 美香
竹内 裕也
竹内 隆夫
光崎 治
野中 友
稲垣 地歩
石川 士郎
山本健太郎

岩崎 文隆
富澤 宏次
夏目 勝代
太田 優輝
安間 一江
松本 政久
松本 友子
中村 明弘
船尾 清美
鈴木真砂子
杉山 昌野
三田茉莉江

長田 仁
熊本 ミワ
大野 秀文
古林 正好
森本 健司
茂木 優希
磯部 真代
加藤 伸隆
村瀬 幸世
村瀬 徹時
平田 江美
堀内 裕文
平田 真理
高倉 利加
住吉かよ子
幸田 俊衣
齋藤 拓海
齋藤 駿祐
安間 莊一
曾根あゆ香
渡邊幸智子
高橋 健一
吉田 博一
岩崎 昌之
岩崎 陽子
横山 浩之
山崎 温益
藤原 一真
足立 弥希
永田 真也
山崎 路明
中村 圭介
市川 秋夫
磯部 欣宏
中野 実
加藤 知宏

伊藤 直幸
今場 新司
竹内 修三
山中 耕太
鈴木フミ代
野中 枝子
野中 昂
野中代枝子
鈴木 通之
村田 和秀
小澤佐知子
早川 昌宏
早川 富士男
早川 和代
牛丸 尊
加藤 陽基
伊藤 功
二橋 玲子
久野佐和子
久保田俊之
多々良直樹
河合 真吾
石橋 佳織
川畑 圭司
鈴木 大忠
岡 慶行
後藤紗和香
後藤 博正
川上 哲生
栗原 篤
村松伊津美
鈴木 香澄
加藤 一馬
加藤 直子

※令和元年8月1日～令和元年11月30日迄 (順不同・敬称略)

これからの 行事

4月



田遊び神事 7番 種時き



◀ 歳旦祭

1月1日午前2時より齋行いたします。

新年を祝いご皇室の弥栄と国の益々の発展、氏子崇敬者と地域社会の平和と繁栄を祈るお祭りです。

▶ 手鉾始祭

1月11日午前8時より齋行いたします。

古くから伝わる特殊神事の一つで、大工職人の皆さまがご奉仕されます。古式による所作が古の技を伝えます



令和2年1月19日(日)午前9時より

どんど焼き祭

どんど焼きは、お正月に飾った注連縄や門松、古いお神札やお守りを焚き上げ、各家庭でお正月にお迎えた歳神様(ご先祖様の御霊)をお送りする大切な神事です。

神聖な神事の妨げとなる不要物(ぬいぐるみ・人形・おもちゃなど)はお持ち込みにならないようお願いいたします。

3月

やよい
弥生

- 1日 月次祭 (午前 9時)
- 1日 一宮祖霊社月次祭 (午前10時)
- 2日 大骨董蚤の市 (日の出~午後3時)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 17日 真田城趾慰霊祭 (午前10時30分)
- 17日 鉾執社例祭 (午後 1時30分)
- 18日 月次祭 (午前 9時)
- 20日 春季皇霊祭遙拜式 (午前 9時)
- 22日 初甲子祭 (午前 9時)

4月

うづき
卯月

〈例祭日程〉

- 17日 猷詠祭 (午前 9時)
- 17日 前日祭 (午前10時)
- 18日 例祭 (午前10時)
- 18日 古式十二段舞楽奉奏(重文) (午後 2時)
- 19日 氏子入奉告祭 (午前10時)
- 19日 古式十二段舞楽奉奏(重文) (午前11時)
- 19日 神幸祭 (午後 2時)



古式十二段舞楽 7番「安摩」

小國神社の 祭典・

1月～

令和元年12月31日(火)午後3時より 師走大祓式・除夜祭

日常生活の中で知らぬうちに犯した罪や過ち、心身の穢れを人形に託して川や海に流し、祓い清める神事です。古来より、清浄を大切にしてきた日本人の慣わしの一つです。

引続き、無事の一年を感謝し、素晴らしい年を迎えることができるようにお祈りする除夜祭を執り行います。両祭典とも、どなたでもご参列ができます。

一年の罪穢れを祓い、身も心も清々しい気持ちで新年をお迎え下さい。

小國神社 おおはらえのことば

検索

スペシャルムービー～古の祝詞 大祓詞への誘い～

1月 むつき 睦月

- 1日 初祈禱祭 (午前 0時)
- 1日 歳旦祭 (午前 2時)
- 1日 一宮祖霊社歳旦祭 (午前 8時)
- 2日 日供始祭 (午前 8時)
- 3日 元始祭・追儺祭 (午前 8時)
- 3日 田遊祭 (午後 1時)
- 6日 本宮山例祭 (午前10時)
- 7日 昭和天皇祭遙拝式 (午前 8時)
- 7日 神明宮参拝 (午前 9時)
- 11日 手鉞始祭 (午前 8時)
- 11日 寒の丑日水汲祭 (午前 2時)
- 17日 八王子社例祭 (午前 9時)
- 17日 御弓始祭 (午前10時)
- 18日 月次祭 (午前 9時)
- 19日 どんど焼祭 (午前 9時)
- 20日 ～2月3日 厄除大祭
- 22日 甲子祭 (午前 9時)

2月 きさらぎ 如月

- 1日 月次祭 (午前 9時)
- 1日 一宮祖霊社月次祭 (午前10時)
- 3日 節分祭世話人祈禱祭 (午前11時)
- 3日 節分祭 (午後 2時)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 11日 紀元祭 (午前10時30分)
- 15日 宗像社・飯王子社・白山社例祭 (午前 9時)
- 15日 塩井神社例祭 (午前10時)
- 18日 祈年祭 (午前10時)
- 23日 天長祭 (午前 9時)



御弓始祭

1月17日午前10時より斎行いたします。

当社では、『疫神鎮送』の神事として、災い除けの側面を持ち合わせています。的に向かい放たれた矢は、災難除けの縁起物として持ち帰る方が大勢います。



節分祭・豆撒き神事

2月3日午後2時より斎行いたします。

豆撒き神事をはじめとする全員参加型の神事で、多くのご参拝の皆様で賑わいます。元は宮中の年中行事として行なわれ、現在では、日本の国民的な伝統神事として定着しています。



新生児選名・命名について

生を受け、生を伝える 「人の一生」

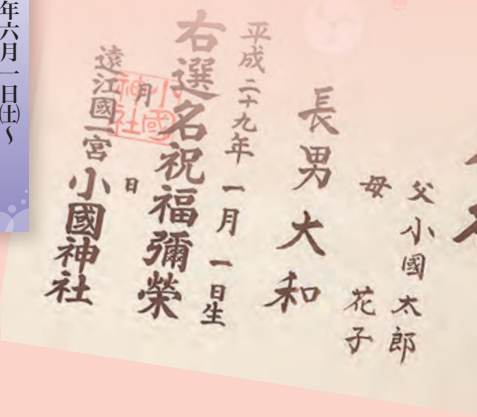
様々な節目を迎えるとき、神さまへ「感謝」と「ご奉告」を行うことは、古来より受け継がれた日本の文化です。

当社では、日本の伝統文化に則した新生児にふさわしい名前を選名いたします。また、ご家族で考えられたお名前候補の中からご相談の上、選名いたします。

お名前が決定の後、お子様の無事成長と一生の幸せをご神前でお祈りし、お神札、朱印を押印した命名書を授与しております。

命名

令和元年六月一日(土)
令和元年十一月三十日(土)



当社で命名奉告をされた皆様 ▶

鈴木はのん	袋井市	深澤	歩	焼津市	鈴木	陸仁	浜松市	高橋	利津	磐田市
大石 菖蒲	東京都	梅田	歩武	東京都	両角	香穂	浜松市	杉浦	奏多	磐田市
朝比奈莉世	袋井市	岸邊	吏津	森町	柴山	喜晴	掛川市	平野	稔莉	浜松市
榊原 伊織	浜松市	阿形	奏利	菊川市	長浦	由芽	掛川市	松谷	実来	兵庫県
松井ほの花	掛川市	山本	夏希	袋井市	山田	朱志	掛川市	山本	航也	牧之原市
小嶋 唯花	掛川市	戸塚	隼佑	掛川市	二俣	里帆	菊川市	榑松	凜奈	袋井市
伊藤 涼太	磐田市	馬場	充輝	掛川市	若田	部愛莉	藤枝市	堀田	依知花	愛知県
大嶋 桜翠	袋井市	稲穂	茉奈	浜松市	小柳	津元暁	掛川市	平松	樹	袋井市
鈴木 梨心	磐田市	渥美	維月	浜松市	野中	彩未	浜松市	佐藤	朱莉	袋井市
高木 凜	掛川市	田口	有紗弥	浜松市	遠山	璃来	袋井市	藤原	菜帆	磐田市
高橋 菜緒	袋井市	松本	奏斗	浜松市	鈴木	紘	袋井市			
奥田 夏登	浜松市	毛利	謙之介	大阪府	大島	茉奈	掛川市			
迫田 伊央	愛知県	萩原	真暉	浜松市	内藤	庵	袋井市			

お申し込み方法など詳しくは、小國神社 選名・命名奉告で検索

小國神社 選名・命名奉告

神社を知れば日本がわかる “まっりの国、日本”



イラスト 小國神社ものがたり 作 たたら なおき

●神社の成り立ち●

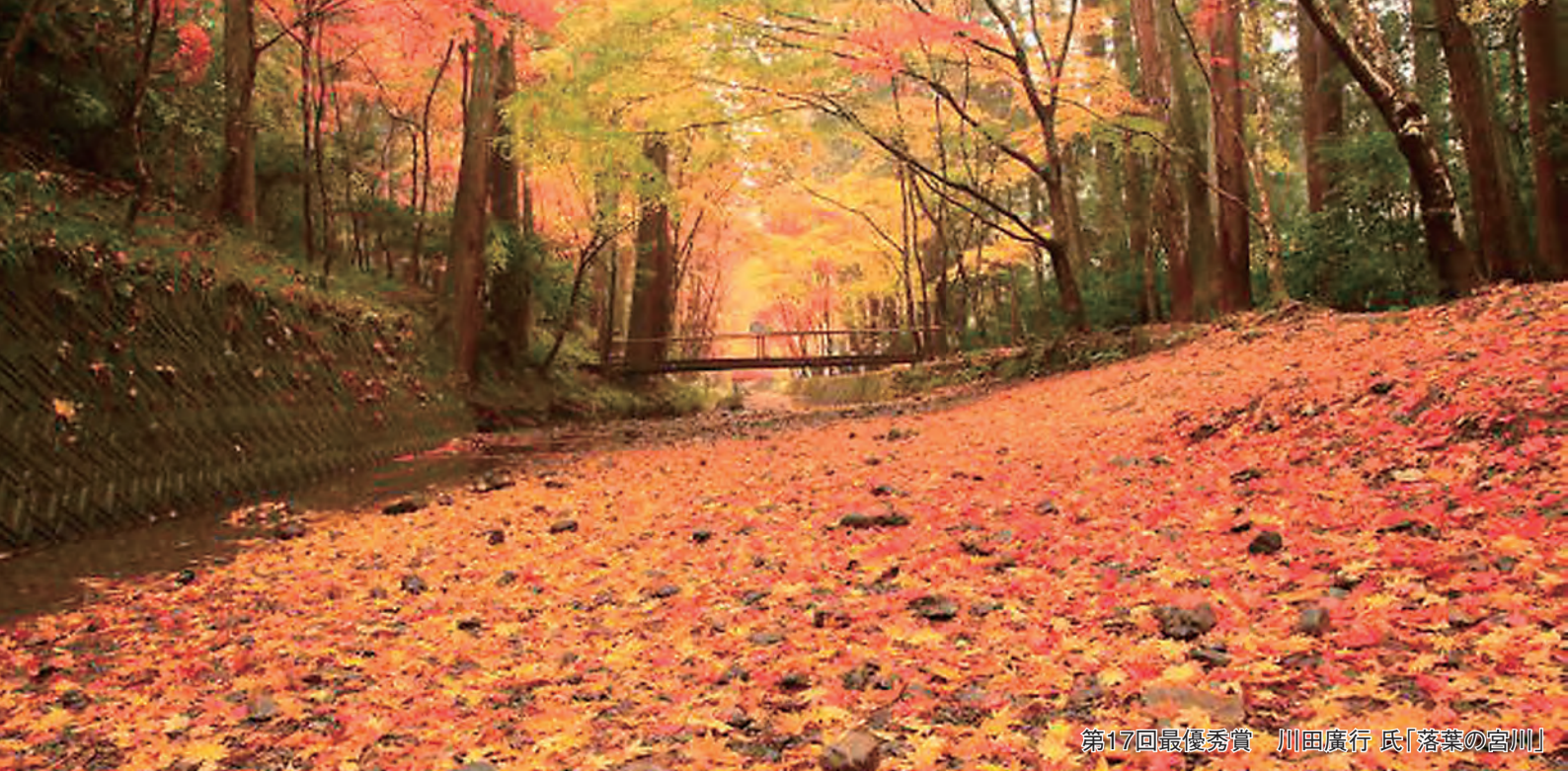
神様はどこにいらっしゃると思いませんか？

と問いかげられると、多くの方は自然豊かな森に囲まれた、荘厳な社殿の奥にいらっしゃるものと考えているのではないのでしょうか。現在の神社のほぼ全てがそういった形であり、「神様をお祭りする場所」と言えば、大きな社殿を思い浮かべる方が大半です。しかしながら、その考え方は長い、長い神道の歴史の中から生まれてきたものの一つです。

遠い昔、古代の人々は立派な岩石や樹木に神は降

臨されるものと考えていました。神様が降りてくる岩石や樹木は「皆の祈りの場」となり、いつしかそこは人々が生活を営む集落へと変わったのです。

私達の生活の変化と共に、神さまへのお祭りの在り方も少しずつ変化してきましたが、「神様への祈り心」は途絶えることなく、現在にまで続いています。



第17回最優秀賞 川田廣行 氏「落葉の宮川」

古代の森 小國神社

〔第18回〕写真コンテスト

「小國神社で見つけた日本の美しさ」を表現した「こころ安らぐ」素敵な作品を心よりお待ちしております

「伝統文化」美しい自然を切り取る

本年も好評をいただいております「古代の森小國神社写真コンテスト」を開催いたします。小國神社で見つけた日本の美しさ」を表現した写真を募集しています。作品一枚からでも、年齢やお住まいを問わず誰でもご応募いただけるコンテストとなっております。

作品のご応募について

- 募集部門
 - 第一部門 境内に咲く草花・樹木などの自然
 - 第二部門 祭事・催物
 - 第三部門 野鳥
 - 応募期間
 - 令和二年六月一日～七月十日必着
 - ご応募のきまり
 - カラープリント 四切/ワイド四切(フチなし)
 - 撮影期間 令和元年七月上旬～令和二年六月下旬
 - 未発表作品に限ります
- ※詳細は当社WEBサイト、当社・県内写真各店配布の応募用紙をごらんください。

最優秀賞から入選まで各賞をご用意

- 受賞作として二十作品を選び、表彰と懸賞のお渡しをしています
- 最優秀賞 一名 賞金五万円 賞状 森町産お茶
 - 優秀賞 三名 賞金二万円 賞状 森町産お茶
 - 特別賞(宮司賞) 一名 賞金三万円 賞状 神饌茶
 - 入選 十五名 賞状 副賞(二品)

心ゆくまで作品を堪能できる写真展へお越しください。ご応募いただいた作品の中から、受賞作品・展示作品、約五十点を選び、展示いたします。

写真展の開催予定

小國神社休憩所2階研修室
令和2年9月頃開催予定

写真展に寄せられた皆さまからのご感想



- 檜皮採取の作業風景は勉強になりました。良い写真です。(磐田市)
- 小國の森に美しい小鳥たちがいるとは知らなかったです。(袋井市)
- 毎年楽しみにしています。スバラシイ!! (掛川市)
- 本当にどれの作品にも賞をあげたい!! スゴいです。(森町)
- 心が洗われました。(牧ノ原市)
- 雨上がりの宮川が特に素敵でした。(浜松市)

詳しくはこちら [第十八回 小國神社 写真コンテスト](#)

[検索](#)

当社は四季折々の自然に恵まれた豊かな杜に生まれ、ご神域は多くの草花が息づいています。

ご紹介するご神域での草花の写真は崇敬者の山崎克己様の奉納写真をもとに掲載いたします。

ガククビソウ（雁首草）
キク科ガククビソウ属

花期 秋～冬

日本を含む東アジアに約二十種があるとされ、コヤブタバコとヤブタバコがヨーロッパから知られています。この種は古い時代に東アジアから帰化したものと考えられています。日本にはそのうち八種が確認されています。花は、枝の先に球形の黄色い頭花が横向きに咲くのが特徴です。名前の由来は、花頭がキセルの雁首にていることから命名されました。



◀ガククビソウ

新しい「かみだな」のかたち
神杉の木霊

『感謝』と『祈り』の場所を整える、いつもの朝が少し変わる

今、改めて『かみだな』が注目されています。

物や情報があふれ、せわしない日常の中で、私たちは時に自分の心を見失いがちです。

『かみだな』の前で自分自身を深く見つめ、静かに神さまに手を合わせることで、見落としていた心に気がつくことができます。

このような時間を日々の生活の中に取り入れることで、私たちの心は『豊かに潤い』、『丁寧な一日』を始めることができます。

近年、住宅事情の多様化により『お神札を丁寧におまつりできずに困っている』との声が多数聞こえて

きました。

そこで当社では、それぞれの生活スタイルや住環境に馴染む『かみだな』をご提案しています。

『神杉の木霊』は、当社のご神域に育つ「神杉」を使い、静岡の職人が一つ一つ丁寧に創りあげ、包み込むような柔らかい印象が特徴の『かみだな』です。

洋室や一人暮らしの部屋にもスツと馴染む自然なデザインで、壁に大きな穴を開けず、お神札を丁寧にまつりすることができます。

『神さまを身近に感じて暮らす、丁寧な暮らし』を始めてみませんか？



御神札まつり箱
神杉の木霊
小國神社のご神域（鎮守の杜）に育つ神杉は、小國神社の祝詞において「神杉」と表されるように、神々の宿るご神木として今に語り伝えられてきました。御神札まつり箱「神杉の木霊」は、この神杉を職人が一点一点丹精込めて奉製した、大切な御神札をお護りします。

■神杉の木霊特設サイト
<http://www.okunijinja.or.jp/kodama/#1>

初穂料 5,000円▲



小國神社 かみすぎのこだま

検索

編集後記

玉垂五十七号をお届けいたします。

今年の紅葉は大変美しく、ご神域が錦に染まりました。十二月初旬を過ぎてもなお、その美しさを保っていることに驚きます。また、TBS全国放送でも当社の紅葉風景が絶景スポットとして紹介され、例年にも増して多くのご参拝の皆さまが訪れました。

さて、令和二年は、日本初の正史に位置づけられる歴史書『日本書紀』が編纂一、三〇〇年の節目を迎えます。

神道では、『古事記』や『日本書紀』、『万葉集』などに記された神々の振る舞いを知り、古代の人々に心を重ね、そこで感じ得たものを、現代に活かし、今を生きてゆくことが肝要とされます。

『日本書紀』成立の経緯は世界（唐や新羅など）に対し、我が国の悠久の歴史を明らかにし、独立した国家であることを示すために編纂されました。

内憂外患の現代において、その気概からも私たちが学ぶところが多いように思います。

令和二年はオリンピックイヤーです。世界から日本が注目される中、私たちは、神代から続く我が国の素晴らしさを、それぞれの言葉で伝えてゆきたいものです。

